

ひさかたの光 ～花の日新を目指して～

令和4年1月24日発行

《一月の花》

《訂正のお知らせ》

「ひさかたの光」(9月号)で、「原始ハス」についての記述に誤りがあったので、訂正させていただきます。

「いつしか絶滅し、昭和の時代になって泥の中から偶然ハスの種が見つかり、それを発芽させたものが現在に至っています」は誤りで、これは同じ古代ハスでも千葉県の「大賀ハス」のことでした。

正しくは、「原始ハス」は**古代から絶滅することなくこの日下の地で群生**し続け、土地の人々から“古代ハス”と呼ばれ大切にされてきました。その後昭和になり、ハスの研究家大賀一郎博士から「これは非常に原始的なものだ」と言われたことがきっかけで、「原始ハス」と呼ばれることになりました。昭和20年以降の原始ハスは、アメリカザリガニに喰い荒らされたり、住宅開発などで生育環境が著しく悪化することで絶滅寸前まで追い込まれるのですが、地元有志の方々の努力で絶滅を免れ、現在に至っています。このたび、その貴重な原始ハスの苗を分けていただくこと(昨年12月に定植)になりました。

【シンビジウム】



玄関のシンビジウム

うまく根づいてくれたのだと思います。シンビジウムに限らず、お花の手入れをしていて花芽を見つけたときは、心が躍ります。



玄関と生徒通用口に、シンビジウムを飾っています。去年は3鉢しか花芽が出なかったのですが、今年は9鉢も花芽が出ました。この花は洋ランの中でも比較的寒さに強く育てやすいのですが、うまく育てないと花芽が出ないことがあります。特に株分けや移植した年は花芽が出にくいです。今年は、地植えされていたシンビジウムを鉢植えにして2年目になるので、



通用口のシンビジウム

【咲きかけてきた花たち】

日新高校では、チューリップをはじめ色々な花を育てています。ほとんどを種や球根から育てているので、発芽した時、花芽が出た時、咲いた時などそれぞれに楽しみが生じます。他にもリーガースベゴニアやサイネリアなどを育てています。これらが咲きだす4月～5月は、いよいよ「花の日新」に近づきます。



スパニッシュフラメンコ



サクラソウ



菜の花

～輝かしき未来を築く日新高校の生徒の皆さんに～

勝者と敗者の違い(10の法則)

1. 勝者は間違った時には「私が間違っていた」と言う。
敗者は「私のせいではない」と言う。
2. 勝者は勝因は「運が良かった」と言う。例え運でなかったとしても。
敗者は敗因を「運が悪かった」と言う。でも運が原因ではない。
3. 勝者は敗者より勤勉に働く。しかも時間は敗者より多い。
敗者はいつでも忙しい。文句を言うのに忙しい。
4. 勝者は問題を真っ直ぐ通り抜ける。
敗者は問題の周りをグルグル回る。
5. 勝者は償いによって謝意を示す。
敗者は謝罪をするが同じ間違いを繰り返す。
6. 勝者は闘うべきところと妥協すべきところを心得ている。
敗者は妥協すべきでない所で妥協し、闘う価値がない所で闘う。
7. 勝者は「自分はまだまだです。」と言う。
敗者は自分より劣るものを見下す。
8. 勝者は自分より勝るものに敬意を払い、学び取ろうとする。
敗者は自分より勝るものを不快に思い、アラ捜しをする。
9. 勝者は職務に誇りを持っている。
敗者は「雇われているだけです」と言う。
10. 勝者は「もっと良い方法があるはずだ」と言う。
敗者は「何故変える必要があるんだ。今まで上手くいっていたじゃないか」と言う。

文責：廣川